令和７年度後期授業改善計画

開講学群	科目名	授業改善計画
基盤教育群	情報化社会と技術	自由記述のコメントでは「難しすぎた」という意見と「簡単だった」という意見が混在していた。このような初心者向けの導入科目では匙加減が難しい。基盤科目であるので、基本的には平易な内容を確実に理解してもらうことを主眼としつつ、しかし高度な内容が存在することも示唆する方向で進めたい。
基盤教育群	基礎統計学Ⅰ	学群により1クラス100名超の場合もあり，大教室で統計理論を提供できる環境が調整されることが望ましい。 教材については高校カリキュラムの変更後の対象学生に対して，現行カリキュラムの範囲で各教員が対応する必要がある。 クラス間で教授方法と試験の質にバラツキが少なからず生じているとのアンケート結果がみられる。 担当教員の連絡・打合せを密にし，各教員の取り組みや作成した教材の共有をWebClassなどを通じて実施し，状況の改善を試みる。
基盤教育群	English GatewayⅡ	Xreadingの課題量については、今後、より効果的かつ適切な分量へと見直しを検討してまいりたいと思います。
基盤教育群	English Self-Expression II	学生の学修到達度や授業評価アンケート結果を踏まえ、今後は授業内活動と事前・事後学修とのつながりをより明確にし、学生が継続的に取り組みやすい授業運営を目指す。また、ペア・グループ活動を通して英語を使用する機会を引き続き確保していく。
基盤教育群	University English	学生が多様な意見や考え方に触れられるよう、また、ペア・グループ活動における相手の固定化を避けるため、可能な範囲で受講人数や時間割配置について検討していきたい。また、学生の関心や社会状況を踏まえ、ディスカッショントピックについても適宜見直しを行う。
基盤教育群	Academic Reading	引き続き、英語力向上に資するよう工夫を凝らし、授業を進めていこうと思っております。
基盤教育群	中国語Ⅱ	全体として、非常に満足度の高い授業となりましたが、今後さらに良い授業を目指して、以下の点に工夫を加えていきたいと考えています。 * 学生の理解をより深めるため、授業外の学習時間を増やせるような工夫を行っていきます。 * 中国語の学習意欲をさらに高めるため、「加点制」などの仕組みを取り入れつつ、さまざまな工夫を継続していきます。 * 使用テキストに加えて、中国語圏の社会や文化に関する学習内容も取り入れ、学生にとってより満足度の高い授業を目指します。 * 授業方法にさらに工夫を凝らし、学生が楽しく中国語力を向上できるような学習環境の整備に努めていきます。 * ペアワークについても、選択肢の幅を広げ、希望者は一人で音読や練習ができるような柔軟な対応を取り入れます。これにより、より安心して授業に参加できる学生が増えると考えています。
基盤教育群	韓国語Ⅱ	2025年度韓国語Ⅱの科目運営として、インターネットやプロジェクトが用意されていて、韓国文化紹介など学生に目に見える授業ができて授業環境、時間割編成など全般に適切で良かったと思われる。授業目標として「韓国語で基礎的な日常会話ができる文法や語彙を習得する」というものであり、シラバス上の計画とおりに進んでいて、学生達も指示通りに予習や復習を行い、到達目標に到達されたと思われる。また、授業目標には含まれないが、メールやコメントシートを活用して学生が気になる「韓国文化」についての質問を受ける方法で、韓国文化が理解を促した。しかし、この方法は質問した学生に限られたことになるので、今後全員が分かるように関連資料作成や配布が必要とされる。また本来のシラバスの目標に無理がない範囲で韓国文化を紹介するように心かけて改善していく。
基盤教育群	スペイン語Ⅱ /Spanish II	1. The teacher will give students weekly advice on how to study and manage their time effectively when doing homework, so they understand that homework is not just about answering questions. 2. Each week, students will receive a simple study plan with clear and specific tasks to complete at home, including different activities for practice, review, and preparation for the next class. 3. Each unit will end with a clear review of what students have learned. The idea is that students can track their own progress easily. 4. To ensure full coverage of the syllabus while maintaining a good learning pace for students, the following actions will be taken: a) Writing activities will use simpler models to save time. b) The teacher will adjust the speed of the lesson if needed. c) Spanish grammar explanations will be brief and focused on use only.
基盤教育群	国際日本学	レジュメが見づらいという意見が散見された。スライド6枚をA4 1枚にしているため、文字が小さくなっている。A4 1枚にスライド4枚にすると配布物が多くなり、混乱する可能性があるため、スライドの文字数を減らし、その分を説明でカバーするか、スライドの内容を変更するかどちらかで対応する予定である。
基盤教育群	国際日本学（食産）	各授業のポイントがわかりにくいという意見があった。授業計画のなかに各授業を位置づけていたが、各回のテーマが異なるためにポイントがつかみ取りにくかったかもしれない。そのため、各授業ごとにその回のテーマと授業計画内の位置づけについて明示するようにしたい。
基盤教育群	憲法	概ね高評価で、特に改善の余地は見当たらなかった。
基盤教育群	政治学概論	授業評価アンケートの結果から、授業内容そのものについては概ね理解・関心を得られている一方、授業時間外学習については十分とは言えない状況がうかがえた。政治学概論は、現代社会や政治現象を多角的に考察するための基礎的視点を扱う科目であり、授業内だけで理解を完結させることには限界がある。今後は、授業資料の活用方法をより明確に示すとともに、授業内で扱ったテーマについて学生が自主的に調べたり考察したりできるよう、コメント課題や関連資料の提示方法を工夫したい。また、学生の関心や日常的経験と結びつけながら学習意欲を高め、授業外学習へつながる授業運営を目指したい。
基盤教育群	国際関係論（食産）	概ね高評価で、特に改善の余地は見当たらなかった。
基盤教育群	社会と経済	本学の全授業の平均値に比べて低いあるいは同等の項目について検討する。「授業の難易度・進度は適切であった」が，学内平均より0.01低かった。教科書に基づきシラバスの記載の通りに進めているが，数学が多い部分で難しく感じられる可能性がある。数学Ⅱの範囲も復習するなど工夫したい。「授業計画（シラバス）に示された目標まで到達できる内容であった」は学内平均と同程度であった。数学の復習を入れるとわかりやすくなるが，前述の進度が遅くなり，到達目標に達するのが難しくなるので，バランスを考えて改善したい。

開講学群	科目名	授業改善計画
基盤教育群	現代東北社会論	キャンパスによるクラスサイズの相違が極端に大きい。時間割配置の影響と考えられると同時に、学生の関心の所在の影響とも考えられ、現状にて推移を観察したい。一方、事前事後学習については不足している。新聞・ニュース・日常生活等を通じた東北情報の獲得を口頭指示するに留めている影響と考えられ、各回テーマに応じた読み物等の配布を通じて改善を図りたい。
基盤教育群	社会の諸相	学生さんにフレンドリーではない授業形式であると思っていたので、不満に感じている学生さんが少数であったことは望外の喜びと言わざるを得ません。励みになります。
基盤教育群	数理科学	大和・太白両クラスについての回答となる。太白の履修者は例年通り少なく，教育効果は高いが体調不良者などが出るとクラス運営に支障が出る。大和については科目運営上の問題はない。
基盤教育群	生命科学（食産）	学修後にオンラインでディスカッションすることで、授業への理解が深化します。これからも事後学修として、コメント提出ならびに提出されたコメントに関するオンラインディスカッションを進めますので、積極的に実施してください。
基盤教育群	地球と宇宙	本年度も、計画通り講義を進めることができました。本講義に対する学生からの感想や意見をみると、特に「未知の宇宙」に対しては、多くの学生が知的好奇心を刺激された様子が伺えました。本講義では、各自のペースで理解を深めてもらうために、毎回の講義録画によっていつでも復習できる環境をつくっていますが、これについては多くの学生が本講義の良い点として挙げています。また、レジュメの図解や、試験を分けて試験範囲を限定することによる一回ごとの学習密度を高める工夫についても、学生にとっての学習のしやすさに繋がったようです。一方で、内容に難しさを感じたという意見や、反対にもう少し難易度を挙げて欲しいとの意見もありました。わかりやすい講義を追求することはもちろんですが、これまで以上に最先端の話題を取り入れるなどして、本分野を関心もって学べる場を提供できるようにしていきたいと考えています。
基盤教育群	数学概論（太白）	学修到達度は高い。期末試験などの難易度を調整（難化）することが可能な状態。量を抑えつつ質の高度化を実施する。
基盤教育群	物理概論（食産）	少人数の開講であり、アクティブラーニングには適した環境であり、質問・課題に対する議論などを取り入れることが可能であった。今後も積極的に取り入れていきたい。また今後は小レポートを課すなどして事後学習にも積極的に取り組む工夫をして行きたい。
基盤教育群	美術	当講座のオリエンテーションでは、自身の専門領域に注力し、基礎教養である本講義においては、できるだけ予習復習はせず、講義にのみに集中するよう指導してきました。その結果、授業外学習時間は平均より0.5ポイント低く、73%が週1時間未満の学習に留まり、まさに、事前事後学修の指示通りに取り組んでいただいております。 一方で、目標到達度は平均を0.16ポイント上回り、「やや到達」「到達できた」の割合は全体の85%を超えています。「説明や資料が分かりやすい」「アニメ等の身近な題材で興味が持てる」といった高評価からも分かるように、講義内のみで非常に高い学習効果が得られている証左といえます。 改善点としましては、これまでは「私語は講義の魅力不足」との考えから積極的な注意を控えてきましたが、マナー配慮の項目が平均を0.34ポイント下回る結果となり、今後は、良好な学習環境を維持するため、努力していく所存です。
基盤教育群	文学	シラバス記載の到達目標の達成度合いや知的関心の喚起の値をみると、基盤教育科目としての目的を達していたことが示されるため、今後も継続していきたいと考える。自由記述に寄せられた「課題の量が少々多い」という点であるが、「文学」という科目の性質上、事前に作品を読んであることが前提であるため、事前学習課題を変更する予定はない。シラバスや初回の講義において、必要な学習についてより丁寧に説明することしたい。
基盤教育群	日本の歴史と文化（食産）	クラスサイズが10名以下と極端に小さいことは、一方のキャンパスが大クラスであることと比較すると、改善の必要を認識する。時間割配置の影響と考えられること、科目提供上問題は生じていないことから、現状で推移を観察したい。一方、事前事後学習については課外学習の素材提供により改善はみられているが不足の傾向にある。授業内容との関連性をより明確化するなど課外学習素材の質的充実を図り、改善につなげたい。
基盤教育群	心理学（食産）	授業評価アンケートの結果は概ね良好であることを踏まえ、科目運営や到達度の設定、授業内容については基本的に今後も従来通りに行っていく。授業計画の一部変更は、主として履修学生の反応や雰囲気を見てのものであり、そうした対応も教育上必要であると考えている。事前・事後学修についてはシラバスに明記するのみで、授業の際の具体的な指示に欠けていたところがあるので改善したい。 学生からの意見を踏まえ、出席を取る際の指示を明確にする、講義室全体に声が届くように配慮する、講義と関係のない作業を行っている学生への注意を徹底する、などに努めていく。
基盤教育群	健康科学（食産）	健康科学（食産）の授業では、授業評価が全体平均を概ね上回っており、学生の満足度が高い授業であった。特に、「日常生活に役立つ」「健康について深く考えるきっかけになった」「実生活で活用したい」といった意見が多く、健康・栄養・発達など多面的な視点から学べた点が高く評価された。また、小テストによる復習機会や、生活と結びついた具体的内容によって主体的に学べた点も良好であった。一方で、一部スライドの見づらさや、連絡方法・出席管理の統一、演習問題の増加を求める意見がみられた。今後は、授業資料の視認性をさらに改善するとともに、連絡方法や出席管理を整理し、学生が迷わず受講できる環境を整える。また、演習や確認問題を適宜取り入れ、知識の定着と実践的理解をより深められる授業運営を行う。
基盤教育群	スポーツ実技(食産)	本科目の運営、到達目標・達成度、授業計画においては、肯定的回答（満足・やや満足）が8割を超えていることや、授業の様子等を踏まえると、実技と理論の両面から概ね受講生の皆様の理解を得られたものと考えております。 自由記述では、実技におけるリズム要素のある体の動かし方を重視した指導に加え、後半の理論編（科学的なトレーニング等）についても、「高い関心」や「有意義」といった意見をいただきました。毎時間のレスポンスシートを通じた双方向のコミュニケーションも学修内容の理解や行動変容に寄与したものと受け止めております。 また、各メニュー解説は安全上も重要ですので、受講者数に合わせて、より動的な展開になるよう工夫していく予定です。提出物の期限については、初回ガイダンスでも説明している通り、個々の諸事情に配慮し、個別連絡による柔軟な対応をしていますが、次年度は周知をより徹底したいと考えております。

開講学群	科目名	授業改善計画
基盤教育群	体を動かす楽しみ	本科目の運営、到達目標・達成度、授業計画においては、肯定的回答（満足・やや満足）が8割を超えていることや、授業の様子等から、受講生の皆様には概ねご理解いただけたものと考えております。 自由記述においては、個々の運動能力に配慮した授業運営や、多様な種目を通じたコミュニケーションの活性化、健康への意識向上といった点に多くの好意的な意見をいただきました。また、個々にとって柔軟なかかわり方も重視した評価方法が、高校までの「体育」への苦手意識を持つ学生も含め、主体的な学びを促す一助となったものと受け止めております。 一方、「事務手続きの利便性」等については、次年度以降、よりスムーズかつ円滑な授業運営を行えるよう、本学で採用している各種システムの活用方法について、授業の中でも丁寧に説明していきたいと考えております。
基盤教育群	スポーツ科学(食産)	本科目の「科目運営」「到達目標と達成度」「授業計画」においては、肯定的回答が8割を超えており、少人数教育の特性を活かした運営が概ね受講生に浸透しているものと受け止めております。 「予習・復習」の項目が全学平均を下回りましたが、実態としては、各自の健康づくりに関する行動記録や個別指導を通じ、個々に最適化した形で学習を継続しています。特に指定日開講を前後半に分け、その間に一ヶ月程度の行動変容期間を設ける実践的学修を重視しています。次年度は、こうした日々の健康実践そのものが重要な予習・復習に該当することをより丁寧に説明し、意識の向上を図りたいと考えております。 自由記述はありませんでしたが、次年度も引き続き、文系・理系等、学生の特性を考慮し、レスポンスシートに基づく柔軟な講義内容の検討やリモート指導を含む個別サポートを積極的に行っていく方針です。
基盤教育群	福祉入門	8回で現代の福祉（社会福祉には限定せず）の概況を説明するよう努力しているが，その必要性を原因と結果から説明すると予定の時間が大幅に超過してしまい，最後の社会保険制度のところを圧縮したものになってしまった。しかしながら必要な説明を行い十分に福祉の必要性を理解してもらったと思う。良いテキストがないので私の方で概要を説明したものを毎回配布しているのでそれで復習ができる。また遠隔授業で実施しているため，電波状態などで必ずしも万全な受講でないことも起こりうるが，こちらでは対応が難しいので，よい受信環境を自分で改善してほしい。学生自身の望む環境の中である意味で一対一の講義が出来るので勉強に意欲ある学生にとっては望ましい環境とも言える。
看護学群	臨床心理学	臨床心理学の授業では、授業評価が全体平均を大きく上回っており、学生満足度の高い授業であったことが評価できる。特に、「具体例や身近なたとえによって理解しやすい」「資料が見やすい」「精神疾患への理解や患者対応の視点が深まった」など、分かりやすさと実践的学びが高く評価された。また、小テストやコメント課題による理解確認、学生同士の意見共有を通した多面的理解も好評であった。一方で、スライドの強調表現が多く重要点が把握しにくいこと、オンライン授業では補足説明や具体例が不足する場面があったこと、レポート評価基準の明確化を求める意見がみられた。今後は、スライドの情報整理と重要事項の視覚化を進めるとともに、オンライン授業でも具体例を増やし理解を補強する。また、ルーブリックや評価基準をより具体的に示し、学習改善につながるフィードバックを充実させる。
看護学群	人間関係論	授業評価アンケートや学生からの意見の結果は概ね良好であることを踏まえ、科目運営や到達度の設定、授業内容については基本的に今後も従来通りに行っていく。授業計画の一部変更は、主として履修学生の反応や雰囲気を見てのものであり、そうした対応も教育上必要であると考えている。事前・事後学修についてはシラバスに明記するのみで、授業の際の具体的な指示に欠けていたところがあるので改善したい。講義内での動画については、動画だけの視聴で担当教員のねらいにまで理解が及ばない学生がいることを考慮し、引き続き、動画の解説も行っていく。
看護学群	形態機能学III	配布資料、小試験やドリル問題などを上手に活用し学修している学生と、それらを上手く使いこなせず予習・復習が不十分なためか分からないままにして苦労している学生がいる２極化がある。それら学生は予習・復習（事前・事後の学習）、暗記ではなく論理的思考、何が分からないかを分かることの大切さを十分に自覚していないためと予想される。よって自覚をさらに促すために授業中に学生への質問をもっと増やすことにする。さらにシラバスには、単なる平均学修時間を示すだけでなく、各々の学修到達度に応じて十分な学習時間の確保が必要であることを明記する。 　また、配布資料（さらに改善していくものも）の不十分な読解や、小試験の学習を定期試験に活かせない学生がいることから、ある程度の長文も含め論述的な読解や説明する力が不十分である。そこで単なる検索（コピーペースト等）やAIでは対応できないテーマのレポート課題も選択肢と考える。
看護学群	薬理学	薬理学は形態機能学を基盤にした応用編なので、論理的理解がより必要になります。配布資料は論理的ギャップが生じないように丁寧な論理的説明で構成されます。簡単なスライドから始まり、徐々に論理が進むにつれて最後は１セットとして１事象の論理的展開がまとまったスライドになります。たどり着くまでの論理が理解できていないと１セットとしてスライドは細かすぎるスライドに見えるようです。簡潔型のスライドは増やしていく方向で検討しますが、あくまで論理的ギャップが生じない積み重ねのスライドは残すので、資料枚数は増えるかと思います。簡単すぎるスライドは論理的に不十分で（簡単すぎる教科書にもこの類がある）、間違って分かった気にならないように注意する必要があります。基本同じ問題なのに視点を変えると解答できない学生がいるのが、その例です。 　また、要望があるので、形態機能学IIIと同様にドリル問題を作成することとします。
看護学群	栄養学	1回の授業内容が多い科目でしたが、積極的に学修に取り組んでいました。毎回のショートエクササイズや、資料のわかりやすさを工夫したところを活用できたとの学生の意見が複数あり、良かったです。化学的な内容を含む科目で、苦手意識のある学生もいますので、授業資料をさらなる工夫が必要と考えています。

開講学群	科目名	授業改善計画
看護学群	公衆衛生学	以下の改善を検討したい。 学生のモチベーション向上のための対策 ・1年生の講義であるため，知識の伝達と同じように学生が学習への意欲を高めることが重要である。そのための対策として，外部の講師を招聘し，自身のキャリアを考えるきっかけとしての機能をこの講義が持つようになることを考えたい。 講義内容の検討 ・公衆衛生学は広範囲にわたり，教科書のボリュームも大きい。講義の途中で小テストを取り入れるなど知識の定着を目指した対策は講義の範囲が短くなるため現実的ではない。そのため，課題の提示と解説の比重を高くすることを検討したい。 ・講義内容は年によって更新される部分もあるため，常に新しい情報を提示するために講義前には情報の確認を怠らない。
看護学群	疫学I	以下の改善を検討したい。 内容の充実 ・「わかりにくい」「難しい」などの感想を聞くことが多いため，なるべく平易な表現を利用しつつ，解説に努めることが重要であると認識している。他の医学や看護学と異なる考え方もあるため，考え方の伝授も重要であると考える。 ・概念や考え方だけでなく，これらの方法論を利用した結果どんなことがわかって現在の医療にどのように応用されているのか，といった具体的な事例を取り入れることで，学生によって身近に感じる様な対策を取りたい。 学生との相互関係の構築の検討 ・前項とも関連するが，学生がわからない部分を指摘し，それに対する解説を行うことができるようなプラットフォームの利用を検討する。わからないまま終わるよりは時間がかかっても理解できることの方が重要であること，わからない部分は個人によって異なる可能性があることが，その理由である。
看護学群	疫学II	以下の改善を検討したい。 国家試験対策に関する内容の充実 ・2回の小テストに加え，毎講義後の課題として国家試験に関連する問題を提示し，次回の講義で解答と解説を行なった。これらに加えて講義中に講義内容に関する課題を提示し，その後に解答と解説を行うことも良いかもしれない。 さらなる知見と新しい情報の提供 ・国家試験と就職した先の職業人としての活躍を考えると，さらなる高度な講義内容も必要だと感じている。医療を取り巻く状況や日本における疾病の構造も変化しているため，常に新しい情報を提供する事としたい。
看護学群	疾病論III	学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。
看護学群	看護実践論	最終試験（論述試験）は、遠隔授業への切り替えに伴い試験方法を変更しましたが、それ以外は概ね計画どおりに授業を運営することができました。本授業は、シラバスにも示しているとおり、学生の主体的な学びを重視する内容で構成しています。授業評価アンケートの自由記述からは、授業の目的を理解しながら取り組んでいた様子がうかがえました。一方で、事前・事後課題に取り組む時間には個人差があり、そのことが授業内での意見交換やピアフィードバックの質に影響していたと考えられます。次年度は、事前課題の内容をより具体的に示すとともに、授業内での意見交換やピアフィードバックがより効果的に行えるよう工夫していきます。また、学生同士が互いに関心を持ち、理解しようとする姿勢でワークに取り組むことの大切さについても、継続して伝えていきたいと考えています。
看護学群	ライフステージ看護学概論Ⅰ	授業到達目標を意識して、　履修学生は学修ができたと思います。 概ねシラバス通りに授業が実施できましたが、レポートが筆記試験に変更となったことについて、授業内の説明では十分に伝わらなかったようですので、シラバスと一致するように整えます。
看護学群	ライフステージ看護学概論Ⅰ	授業到達目標を意識して、学修できたと思います。 概ねシラバス通りに授業が実施できましたが、レポートを筆記試験に変更となったことについて、授業内の説明では十分に伝わらなかったようですので、シラバスと一致するように整えます。
看護学群	家族看護論	学生自身の授業目標到達度は9割の方が、到達できた・やや到達できたの回答でした。ジェノグラムやエコマップを描く練習を何回かしたことで、回数を重ねるごとにかけるようになり、また家族全体を見る力も伸びたと思います。外部講師からの講義の時間もあり、学修の到達は高かったと捉えます。授業計画に示された目標まで到達できる内容であったかについては、一部の方が不満と回答していました。家族の円環システムなど、分かりにくいところがあったかと思いますので、今後は、教材を見直し、また家族の円環パターンについても描けるようなワークの時間を設けるなど、科目の運営を改善していきます。
看護学群	災害活動論	災害看護プログラムを構成する選択科目であり、履修した皆さんは、意欲的に学習に取り組まれていたと思います。演習等で、各自で考えたり、グループメンバーと協働して課題に取り組んだりしながら、思考力や協働性を高めることにも繋がったのはないかと考えています。公的な支援や社会のしくみについては、知識としての積み重ねも必要ですので、知識を身に付ける学習についてもさらに授業内容や実施方法を検討していきたいと思います。 災害看護の学習も、この科目の授業だけで完結するのではなく、各科目の学習につながっていきます。1年次の科目として、皆さんが興味・関心をもって取り組む授業内容への検討をしていきますので、学習者の皆さんにも、各科目での知識・技術の学びを加えながら、実際の災害現場でも活躍できる看護職を目指して引き続き、災害看護の学習も継続されることを期待しています。
看護学群	災害看護支援論	4年次後期の選択科目として、学修意欲の高い学生が履修している可能性があり、到達目標の設定は適切であったと考えられる。事前学習課題や事後学習課題を設定することで、時間外の学習時間も確保できていたようだ。一方で、自由記述意見から、最終レポート課題の設定に困惑する学生がいたことが伺えるため、次年度の課題設定の見直しを行うとともに課題の説明を十分に行うこととする。

開講学群	科目名	授業改善計画
看護学群	看護英語	授業計画（シラバスなど）のわかりやすさでは、8割以上が満足の回答でしたが、授業のポイントは明確さでは、満足との回答は6割と減少していました。看護英語の授業のポイントについて、より分かりやすく伝えていきたいと思います。授業の難易度・進度の適切さについては、回答者全員が満足との回答でした。しかし、授業目標到達度については、8割が到達できたと回答していて、そのほかの方はそうではなかったという結果でした。授業の難易度はこのままで、学生個々の到達度が上がるように、教員からの声掛けや学修するポイントについて明確に示していけるように授業を改善していきます。
看護学群	看護技術論	本授業は、看護学原論で学んだ内容と看護技術各論での学びをつなぎ、これから学んでいくすべての看護実践の基盤となる内容を学ぶ科目です。そのため、看護技術各論Ⅰ・各論演習Ⅰの進度に合わせて授業を展開しました。基礎看護学実習（第1段階）で使用する記録用紙を授業に取り入れることで、1年次前期から後期の実習へと学びをつなげることができました。また、毎回学生が自分の考えを言葉にして共有する時間をつくり、発言する機会を設けながら双方向の授業を行いました。遠隔授業に切り替わった時期にもTeamsを活用したグループワークを行い、複数の教員が関わることで対面授業に近い形で学習活動を進めることができました。これらの点は、授業評価アンケートの自由記述でも「よかった点」として挙げられており、次年度も継続していきたいと考えています。
看護学群	看護技術各論Ⅰ	本科目は、クマによる被害防止に向けた大学の対応に伴い、授業スケジュールの変更及び対面授業から遠隔授業に切り替えて実施しました。本科目では、講義で看護技術の基本となる知識や根拠を学び、その理解をもとに演習で実践し、リフレクションを通して看護技術の修得に向けた自己課題を明確にするという一連の学習プロセスを重視しています。しかし、スケジュールの変更により、この学習の流れを保つことが難しく感じた学生もいたのではないかと思います。 そのような状況の中でも、授業内容の分かりやすさや資料の見やすさ、学生間の意見交換のしやすさ、学んだ知識を演習で確かめながら実践できたことなど、前向きなコメントをいただき、講義で学んだ知識を演習につなげながら学びを深めていることが伺えました。今後も皆さんが看護に関心をもちながら看護技術の理解や習得につながるように、教員の臨床での看護実践経験を活かした授業運営に努めていきます。
看護学群	看護技術各論演習Ⅰ	本科目は、クマによる被害防止に向けた大学の対応に伴い、授業スケジュールを調整し、演習は可能な限り対面で実施できるようにしました。学生の皆さんの意見からは、看護技術の学習において、知識を行動へつなげる難しさと実践を通して理解が深まる重要性を実感していることが伝わってきました。今後も皆さんが看護実践上の課題を明確にし、技術の向上に主体的に取り組めるよう、ナーシングラボでの実践的な練習を行える環境づくりや、教員に質問・相談しやすい雰囲気を大切にしていきますので、積極的にナーシングラボを活用してください。また、皆さんの看護実践力を高められるよう、教員からの具体的でタイムリーなフィードバックの充実にも努めていきます。
看護学群	母性看護援助論Ⅰ	母性看護援助論Iは、妊娠期・分娩期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、ほぼ全項目について高得点となっており、皆さんが大変熱心に学修に取り組んだことがわかりました。特に「知識や技術の習得・知的関心の喚起」は高得点が得られ、当科目が特に重きを置くDP「知識・技術」を皆さんが修得できたことを嬉しく思います。自由記載には「授業資料が整理されていて、要点がわかりやすくて良かった」との意見もみられ、教材と説明の適切性についても満足いただける内容だったことがうかがえました。また、「演習を通してより実践的に学びを深めることができた」との感想も見られ、妊婦体験やディベートを通して皆さんが主体的・能動的に学習したことが読み取れました。一方、出席確認の取り方について改善を求めるご意見をいただきましたので、検討させていただきます。貴重なご意見をありがとうございました。
看護学群	小児看護援助論Ⅰ	みなさんのご意見から、小児看護についての学びが深まったことが伝わりました。 一方で、演習に関して、調整が必要と考えられるご意見もありました。 演習に関しては、演習の目的・到達目標・重点的に学ぶポイントをより具体的に提示することや、学生が自主的に練習できる機会を確保できるよう、演習室開放日や練習時間の設定について検討していきます。
看護学群	精神看護援助論Ⅰ	知識や技術の習得・知的関心の喚起に役立ったについては、回答の9割が満足とのことで、これは、外部講師の授業も取り入れ、病を抱える人の実際の体験など直接聞くことで、理解が深められたと思いました。また、グループワークや疑問点への回答など、インタラクティブな授業展開の中で、学習到達度も比較的高い結果となったと思います。今後も、主体的な学習が出来るように、質問の時間や意見交換の場を活用したり、外部講師からの話を聞ける機会を作っていきます。
看護学群	在宅看護援助論Ⅰ	みなさんからの授業評価・ご意見をありがとうございました。在宅看護援助論Ⅰの到達目標が概ね達成できたことを、大変嬉しく思います。本授業では、毎回の講義で実施したレスポンスを通して、自らの考えを言語化することを重視しました。また、知識の定着を目的として確認テストを自己学習として位置づけ、その成果は定期試験の結果にも反映されていたと考えています。今後もこれらの取り組みを継続するとともに、映像教材を活用し、在宅看護の実践をより具体的にイメージできる授業づくりを進めていきます。一方で、各回の要点や重要なポイントについては、講義の中でより明確に提示できるよう改善していきたいと考えています。
看護学群	公衆衛生看護学原論	公衆衛生看護課程の最初の選択科目であり、公衆衛生看護の理解を深めるためにグループワークを実施し、各グループに教員を配置して意見交換できる体制を整えたことは良かったと考える。今後も継続していきたいと考える。
看護学群	公衆衛生看護マネジメントⅡ	新規開講科目であったこと、熊騒動もあり、急遽授業変更を行ったこともあったが、概ねシラバス通りの内容を実施することができた。学生の評価からも、授業の難易度や授業目標到達度については満足を得られていることから、次年度も継続した内容としていく。
看護学群	公衆衛生看護マネジメント演習	全体平均４.３ポイントとおおむね適切な授業運営であった。自由記述では教員との距離が近く疑問がすぐに聞ける環境であったことが挙げられており、演習科目として人員配置も充分であった。熊の出没により日時・場所の変更等があったため、一部計画通りの進行が出来なかったところがあるが、履修生への連絡も早期にスムーズにできたことから大きな混乱もなかった。次年度以降も、自然災害など突発的な事情により計画変更の可能性があることを見越して、余裕を持たせた計画をしていく。
看護学群	養護概説	授業外の学習時間は「1時間未満」から「4～5時間」まで大きな差が見られた。「事後課題の分量に具体的な指示があれば、安心して取り組める」という学生さんからの意見があった。 今後は、課題の分量を明確にすることで、学習時間の偏りを是正したい。あわせて、事後学習の目的が「学びの定着と深化」にあることを周知し、学生が迷いなく学習に専念できる環境を整えたい。

開講学群	科目名	授業改善計画
看護学群	教育課程論	教職課程コアカリキュラムの内容に準拠した到達目標の設定であり、それに基づき到達度を検証できている。評価基準の明確化と事前事後学修時間の不足への対応を進めながら、授業内容の改善にも努めていきたい。
看護学群	教育相談の基礎と方法	授業評価アンケートや学生からの意見の結果は概ね良好であることを踏まえ、科目運営や到達度の設定、授業内容については基本的に今後も従来通りに行っていく。授業計画の一部変更は、主として履修学生の反応や雰囲気を見てのものであり、そうした対応も教育上必要であると考えている。事前・事後学修についてはシラバスに明記するのみで、授業の際の具体的な指示に欠けていたところがあるので改善したい。
看護学群	教職実践演習（養護教諭）	養護教諭になるための学習の総まとめの位置付けになる科目です。 これまで学んできた教職科目や養護に関する科目についての知識と、養護実習での経験を結びつけ、養護教諭としてどのような視点で子どもたちを育てていくのか、どのような部分に知識や経験の不足があるのかなど、受講学生一人ひとりが再確認していくことがこの演習のねらいになります。 受講学生それぞれが養護実習で経験してきたことを共有し、養護実習を通してさらに深めたいと思った部分や不足していると感じた部分を補完していくことができる演習であるよう、今後とも受講学生のニーズに沿った演習展開をしていきたいと思います。
事業構想学群	価値創造デザイン基礎	授業評価アンケートでは、授業の内容・進度・教材に対して高い評価を得た一方、学生自身の目標到達度や授業外学習時間がやや低い結果となった。本科目はオムニバス形式で多様な教員が担当するものであるが、ガイダンスおよびシラバスの説明を充実させるとともに、卒業後の進路・就職実績に関する情報提供などを通じて学修意欲のさらなる向上を図る。
事業構想学群	事業プランニング基礎	授業評価の数値とコメントを真摯に受け止め、次年度の授業改善に活かします。事業プランニング基礎においては、理論と実践のバランスを意識しながら、受講生が自らの事業構想を深める機会を充実させるとともに、フィードバックの質と頻度を高めることで、学習効果の向上を図ります。
事業構想学群	地域創生基礎	本科目は1年次必修科目として、地域創生学類所属教員がオムニバス形式で登壇し、地域創生の全体像を俯瞰的に把握できるような講義設計を行っている。とりわけ、地域創生学類が履修ガイドにおいて提示している各系の体系に沿ってシラバスを整理することで、学類の教育理念や専門分野の広がりが初年次から段階的に理解できるよう工夫した講義構成とした。 次年度についても、こうした基本的な枠組みを踏襲しつつ、政権交代や制度改正等に伴い変化の見られる地域創生の最前線の事例や、関連する研究動向を適宜取り入れ、時代的要請に即した講義設計を行っていきたい。
事業構想学群	地域活性化とビジネス	本講義は、「地域創生基礎」と対をなす科目として位置づけられており、地域創生基礎で扱う理論や枠組みに対して、実際の事業の実例を、実践者であるゲストスピーカーから講義いただく形式で進めている。例年、事業改善計画に基づき、講義内容の質的向上を目的として、ゲストスピーカーとの事前打ち合わせを入念に行ってきた。 次年度においてもこうした取り組みを継続し、十分な事前調整を行うことで、地域創生を学ぶ入門編としての本講義の役割を的確に果たせるよう、講義設計の充実に努めていく所存である。
事業構想学群	イノベーションデザイン特別演習Ⅰ	昨年度の講義では、受講者数を20名程度と想定し、水曜日・土曜日の対面による集中講義を予定していたが、変則的な日程であったことも影響し、受講者数が少なかったことから、講義形式を変更し、ゼミ形式での授業を実施した。講義の中盤から後半にかけては、熊対策の影響により、急遽オンラインへ切り替えた回があった。その結果、グループワークによる学修が計画通りに進めづらくなり、サービスデザインにおける仮説検証についても、限定的な範囲での検証にとどめる必要が生じた。 これらの昨年度の状況を踏まえ、今年度は授業実施日を水曜日の午後のみに変更し、受講しやすい環境を整える。不測の事態に備え、オンライン環境でもグループワークを円滑に行えるよう、学生が利用しやすいツール（FigJam等）を活用した演習を取り入れる。加えて、近隣でのフィールドワークを組み込むことで、実学を通じたサービスデザインの理解向上を図る。
事業構想学群	事業構想特別講義Ⅲ	特別講義のため1年生の履修がほとんどだが、基盤教育群の科目と時間割が重なっていため履修者が少なかったので、時間割を検討したい。
事業構想学群	応用統計学	本講義では、アンケート結果により「R」を使って計算でき，数学が苦手でもついてくことができたという意見に加えて，教科書の解説要点をまとめた資料を配布したことが良かった点として挙げられています。今後の研究活動にも役立てられるものと考えます。しかしながら，一部の学生について，目標到達度が困難であった学生がいることや，課題が難解であったという意見もあり，今後はできるかぎり学生を取り残さないような工夫が求められる。
事業構想学群	社会調査法	社会調査法においては、調査設計から分析・報告までの一連のプロセスを体系的に学べるよう授業構成を整理し、受講生が実際の調査場面を想定しながら主体的に取り組める課題の充実を図ります。
事業構想学群	数理計画	授業内容の理解度に差があり、個別対応が望ましいところであるが、授業時間中での対応が難しいため、課題のやり取りでの対応にならざるを得なかった。次年度は対面での補習なども検討してみたい。
事業構想学群	地域創生特別講義Ⅱ	地域創生特別講義は、「地域創生特別講義Ⅰ」・「地域創生特別講義Ⅱ」として開講し、Ⅰでは地域情報、Ⅱでは合意形成を主要なトピックスとして設定し、ガイダンス時にその内容を明示した上で実施した。特別講義Ⅱでは、まず学内において合意形成に関する理論的なレクチャーおよびワークを行い、その後、福島県猪苗代町における学外演習を実施した。 猪苗代では、スキー場開発をめぐる合意形成のプロセス、とりわけ震災やコロナ禍といった困難な局面における関係者間の調整や意思決定のあり方について、現地事例を通して学ぶ機会を得ることができた。このことから、講義内容に対する学生の評価は概ね高いものとなった。一方で、事前・事後の学習時間の確保という点では、なお改善の余地を残している。 とりわけ、本講義は講義後の振り返りが重要となる科目であることから、今後はその点に留意し、適切な振り返り課題を設定することで、学修の深化と学習プロセスの改善を図っていきたい。

開講学群	科目名	授業改善計画
事業構想学群	eビジネス	前期「ビジネスと情報」を基礎編として、本講義はAI事業提案へ発展。AI時代に人が仮説を持ち、選び、価値として伝える力を育てる実践型ビジネス教育である。当初、考えることの多さに戸惑いもあったが、中間発表を仮説検証とレビューの場とし、教員と学生全員のコメント、他班の構成・伝え方を踏まえ提案を磨いた。ビジネスに唯一の正解はなく、AIの答えを並べるだけでは価値も共感も生まれないため、自分たちなりの理想や仮説で顧客課題を考え抜く必要がある。この差が発表で明確に表れ、中間後に新たな課題が見え、提案内容は著しく伸びた。真剣味も増し、講義外で週5時間以上取り組んだ学生が7.5%いた。評価平均も前年換算4.19→4.57へ上昇。「すっかり卒業した気分」「3年次以降も講義を受けたい」「ゼミがあれば入りたい」との声もあった。次年度は班の立ち上がり差を踏まえ、事前配慮と進捗確認を強め、外部コンテスト接続も進める。
事業構想学群	ビジネスプロセス論	一方的な講義だでてなく、課題やグループワークを取り入れた点が評価をされている。講義に集中してもらうため、講義資料の配布は講義後に行なっていたが、タイミングが遅くなった回もあったので改善したい。
事業構想学群	ロジスティクス	授業アンケートの平均値はいずれも全科目平均を上回っており、対応する上記5～8を適切等とチェックした。学生の自由記述意見の中で、「講義のスピードがたまに速くて、内容についていけないことがあった」とあった。学生の進度に留意した授業と事前学習の推奨によって、理解度を高める。
事業構想学群	経営組織論	2年後期の専門・最重要基幹科目で、授業内容、評価方法の変更は予定ない。最新理論、事例、メソッドを導入して、大学生に求められる知的好奇心を喚起し、主体的な学習行動を選択できる授業を志向する。第1回授業で、「受講規程」「レポート提出規程」「評価方法」「評価基準」などを配布し確認、指示をしたが、一部学生が順守せず、再三、注意することが発生した。今後は、教務事務にも相談し協力を仰いで対処する。3年以降の「就職活動」の理論的支援に際して、学生の意欲、ニーズに差異があるため、より慎重に考慮する。事前の「内容を体系化したレジュメを作成する」、事後の「疑問点が解消されたのかを確認する」は、なかなか機能しないため、毎回、周知徹底する。前年度より不見識な態度、発言、欠席などは改善されたが、学問に対する取り組みへの逆機能となる事象については、教務事務、教務担当教員とともに、変えていきたい。
事業構想学群	経営財務	講義を教科書に沿って行い、毎回復習したことが評価されている。
事業構想学群	公共経営	学生の指名の仕方をもっとランダムにして欲しいとの声が複数あったため対応したい。 また、フォームズの設定方法についても改善の声があったため対応したい。 事前・事後学習の時間が少ないことから、もう少し課題の難易度を高くしても良いと考えられるので、課題を出す際に考慮したい。
事業構想学群	コミュニティビジネス	概ね授業計画のとおりに講義を実施することができた。一部，ゲスト講師の都合などによって，シラバスの計画を変更することとなったが，それ以外の講義内容および最終的な事業計画の作成と振り返りを実施できた。事業計画の内容について，講義内でも詳細を説明していたが，個々の進捗についての管理が不十分であり，負担になっていたところがあった点については次年度の課題として進め方を見直していきたい。
事業構想学群	地域分析学	概ねすべての設問について満足・やや満足といった結果が得られました。自由記述では、「資料が分かりやすかった点」「外部の方々からのお話や、様々な情報ツールを活用して、その扱い方も含めて学びを進めていくことができた点」「様々な地域分析に関するサイトを知れた点」「自分の知らなかった知識が増えて良かった」などの意見が挙げられています。今後も、わかりやすい資料づくりに加え、さまざま情報や分析ツールといった知識の教授と実際に活用するといった実践的な講義手法を継続していきたいと考えています。また、週あたりの授業外の学習時間については非常に低い値となっています。そのため、シラバス記載の予習・復習内容を再検討・精査することで、学びの深化に繋がるよう工夫したいと思います。
事業構想学群	都市計画	概ねすべての設問について満足・やや満足といった結果が得られました。自由記述では、「資料が見やすい」「先生の解説が分かりやすい」「前回の講義の復習が毎回あるので頭に定着しやすい」などの意見が挙げられています。本科目の特徴として、知識・知見を積み上げることで、専門的な内容について理解できるといった面があります。前回の復習を取り入れること各回の講義内容の定着に繋がるといった回答結果から、この講義手法は継続していきたいと考えています。また、週あたりの授業外の学習時間については非常に低い値となっています。そのため、シラバス記載の予習・復習内容を再検討・精査することで、学びの深化に繋がるよう工夫したいと思います。
事業構想学群	ライフデザイン	授業外学習がさらに進むよう、課題や事前学習を改善する
事業構想学群	ローカルベンチャー論	本授業は単に机上の理論を学ぶのではなく、地域社会のニーズをしっかりと拾い上げてそこから真の課題を抽出し解決策を考えていくという流れになるため、学外での調査に時間を割いてもらいたいところである。ここをしっかりやるかどうかで学びの質、すなわち学びきれた満足感に大きく影響が出てくるものと強く感じている。事実、学外での学習にはほとんど手をつけずとも、授業を完結することは可能ではあるが、なんとなく表面的なことをなぞって学んだ感じにすぎないと思う。履修学生にとっては、学外でのこのような学習はどうしても抵抗感が多いかと思うが、ここが大きな分かれ目になるため、そこをもっと徹底する工夫は必要かと改めて感じた。また、履修学生の発表に対してのアドバイス、フィードバックは、もっとモチベーションを上げて取り組んでもらえるよう工夫の余地は大きいと感じているので強く意識して臨んでいきたい。
事業構想学群	地域資源論	地域資源論では、例年の講義改善計画に基づき、オリジナル教材を活用しながら学生の理解度・習熟度を高める講義運営に取り組んできた。 今年度については、教材を用いたワークを実施する予定であった回において、クマの出没に伴い急遽オンライン講義へと切り替える必要が生じたため、一部講義の順序を入れ替えて実施した。その結果、内容の流れに一部混乱が生じた可能性が認められたことから、該当箇所について復習の時間を設け、理解の定着を図る対応を行った。 次年度においては、これまでの教材開発および講義運営の蓄積を踏まえつつ、非常時や急な授業形態の変更にも円滑に対応できるよう、講義展開の代替案や対応策を事前に検討し、より柔軟かつ安定した講義運営を目指したい。
事業構想学群	マクロ経済学	アンケートの回答結果に照らし、授業計画や到達目標、提供した資料の内容や難易度に関しては概ね適切であったと思われる。しかし、学生自身の到達度の感じ方については、十分に到達できたと感じている学生がやや少なく、授業外学習時間もこちらの想定よりも少ない。したがって、授業内容は維持しつつ、学生が自分で学習時間を増やせるような演習問題を取り入れることなどを検討する。自由記入欄にも演習の回を求める書き込みがあり、この方向での修正は学生の要望とも合致するものと思われる。

開講学群	科目名	授業改善計画
事業構想学群	環境地理学	本年度も、計画通りに講義を進めることができました。学生からの感想・意見を見ると、特にQGISを用いた実習を通じて、東北地方の環境課題を身近な事例から具体的に理解できたことが伺えました。昨年度の反省を活かし、ソフトウェアの操作手順の丁寧な解説（2回繰り返す）や全体への目配りを意識しましたが、それが「進度が適切だった」「理解しやすかった」との声につながったように思います。また、紙レジュメの配付についても、直接書き込めるため、学習しやすかったという意見をもらいました。そのほか、講義中の最近のニュース等にからめた解説が集中力維持に役立ったという意見もありました。今後も引き続き、講義・演習への集中力を高める、あるいは維持するための工夫を続けていきたいと思います。
事業構想学群	公法	概ね高評価であったが、学生同士で議論してもらう機会等を設けてみたい。
事業構想学群	非営利組織論	・様々な分野の非営利組織で活躍されている方々の話を実際に聞くことができたので、その地域が持つ課題やそのアプローチの方法など詳しく対面で知ることができた。 ・担当教員以外にゲスト講師の話も聞けたことにより、より理解が深まった。 ・貴重な話を聞くことができた ・始めのころはグループワークが適度に組み込まれていた点が良かったと思います。 非営利組織に関する諸理論に加えて、実践者をはじめとするゲストによる講義、グループワークを交えた講義を実施した。学習到達度も概ね達成できたことから、次年度以降も継続して理解を深められるような講義設計とする。
事業構想学群	ボランティア論	グループワークなどを入れながら学びを深めることができている。引き続き、地域における市民活動の意義について、事例などを取り扱いながら講義を設計する。
事業構想学群	景観工学	毎回講義に出席して授業を聞く学生が多くいる中、課題レポートのみ提出する学生もたまに垣間見られ、出席に関する見極めと適切な学生評価は常に課題となっている。毎回のクイズやレポートの提出の際のTeamsやメール、紙ベースでの提出といった不確定性は真面目な学生を大切にするための次善の手法として採用している
事業構想学群	水土環境技術	色々な先生のお話を聞くことができました。講義資料もとても見やすかったです。半年間、ご指導いただきありがとうございました。講義を通して、多くの学びを得ることができました。森口先生の講義での計算が難しかったですが、論理的な理解にも繋がりました。などのコメントがあり，おおむね到達目標は達成していたと考えられる。一方，計算問題やExcelを使ったものが多く少し難しかったと，のコメントがあった。今後，講義資料と説明を改善したい。
事業構想学群	政策実証分析	計量経済学の手法を学ぶものであり、回帰分析による政策効果の検証など難しい内容もあるが、穴埋めの配布資料や小テストなどにより、学生の意識が継続する創意工夫を行いながら、講義を組み立てている。シラバスにおいて講義内容を事前に理解できるようわかりやすい表現で周知を行う。
事業構想学群	農業農村振興論	時間割、クラス編成とも特に問題はなかった。教材はTeamsにより毎回の資料を配信し、ほぼ毎回、学生からの質問・感想を受け、次回講義で共有・コメントバックを行った。農業・農村振興という、一部の学生にとってはあまりなじみのない分野であるが、到達目標は概ね達成できたと考える。学生の主体性を重視した課題を課したが、事前・事後学習時間は少なかった。講師ごとの課題等も検討したい。講師による出欠確認方法の統一について今後検討したい。
事業構想学群	プロダクトデザイン	若干ではあるが、授業目標達成度が到達出来なかったという声があった。授業の難易度、進度に課題がありそうなので、それを踏まえてより難易度、進度を下げて授業内容がより分かりやすくなる様に改善していく。また、授業外の学習時間は、やや少ない様なので、課題を多くする事で時間を増やすことを検討する。
事業構想学群	感性情報デザイン演習II	授業の運営も学生の成果も、概ね満足できる結果であった。授業計画を一部変更したのはクマ対応のせいである。そのため楽しい半田付け大会ができなかったのが残念である。資料が分かり難いというコメントがあった。学生さんにはあの程度の資料を読解できる能力を期待したいところだが、それが難しいのであれば、理解度を測りながら説明を丁寧にするなど、親切に対応したい。
事業構想学群	コンピュータアルゴリズム	授業評価アンケートでは、授業のポイントの明確さや知識・技術の習得、知的関心の喚起において特に高い評価を得た。引き続き毎回の復習確認と学生の疑問への迅速なフィードバックを実施し、理解の定着を促す授業設計を維持する。
事業構想学群	ウェブプログラミング	授業運営についてはおおむね計画通りに実施できた。毎回コメントシートを提出させ、学習理解度によって次回の授業内容を調整するため、一部の回で内容を変更した。 授業時間外の学修時間確保のために、事後課題を事前課題に変更し実施する試行を検討中である。
事業構想学群	フィジカルコンピューティング	授業の運営も学生の成果も、概ね満足できる結果であった。授業計画を一部変更したのはクマ対応のためであった。「理解していないが進んでしまうことが多々あり、置いてけぼりにされているような気がした。」というコメントがあったので、来年度は学生の理解度をより丹念に確認しながら講義を進めたい。
事業構想学群	人工知能とデザイン	授業評価アンケートでは、知識・技術の習得および知的関心の喚起において高い評価を得た。特にチャットボット制作が、AIへの理解促進に大きく寄与した。引き続き実践的なプログラムを中心とした授業構成を維持する。

開講学群	科目名	授業改善計画
事業構想学群	空間情報コンピューティング	【良かった点（自由意見抜粋）】 ・様々な技術を学べて面白い。VR制作が楽しかった。 ・生活に浸透しつつある技術を学ぶことができた。 ・学んだ内容について、実際に自分でシステム構築するのが大変楽しかった。 【改善すべき点（自由意見抜粋】 ・課題が多く、資料を見ても難解だと感じるようなものが毎週出るため時間がとられる。ゲーム制作などの数週間にわたるグループ制作の間くらいは課題を出さなくてもいいと思う。 【来年度の授業改善について】 ・授業評価アンケートの評価点については、全ての項目で「満足」「やや満足」肯定的な評価を得ており、昨年度に比べて良好な状況にある。昨年度の反省から、レベル調整を進めた結果、難易度・進度は適切であったとの回答が多く得られている。その一方で課題の提出率については例年になく低く、不合格となる学生も多い状況であった。学生が確実に課題を提出するような方策を考えたい。 ・講義では空間情報に関する技術について、自らが調べながらシステム構築を体験し理解することを目指している。自由意見でも技術を学ぶことができた点、システム構築が楽しかった等の意見が示され、概ね目指すところは理解されていると判断する。なお課題が多いとの意見もあり、今後、調整を図りたい。 ・PCのデータ容量の制約でアプリケーションのインストールに苦労したとの意見が複数みられた。年々、ソフトウェア側が肥大化しており、やむを得ない事情もあるが、最小容量でのインストールが可能となる方策を考えたい。
事業構想学群	エンタテイメントデザイン	【良かった点（自由意見抜粋）】 ・身近にあるゲームがどのように設計されているのか考えるきっかけになった。 ・技術的な点だけでなくエンタテインメントとはなんなのか、ユーザーを中心とした考え方など、他にも応用できるような内容を学ぶことができた。 ・履修しなければできなかった体験ができ、学びはもちろん何よりとても楽しかった。 ・座学だけではなく、実際にアイデアを出し合ってゲームを制作するのはとても楽しく貴重な経験となりました。 【改善すべき点（自由意見抜粋】 ・記載なし 【来年度の授業改善について】 ・授業評価アンケートの評価点については、多くの項目で「満足」が５割を越える肯定的な評価結果となっており、授業内容は概ね良好な状況にあると言える。また自由意見の中でも「楽しかった」という意見が複数みられ、グループワークを通して楽しみながら効果的に学んでいることが窺える。 ・知識・技術・知的関心に関する項目については６割の学生が「満足」と回答しており、当該授業科目の履修が学生にとっても有益な機会となっていることがわかる。今後も学生がより興味をもち主体的に学ぶことができるよう、最新技術に関わる情報提供と演習課題の充実に努めていきたい。 ・事前事後の学習時間については、５週に集約した集中講義であることからやや少なくなっている傾向にある。今後、適切な学習時間が確保されるよう改善を図りたい。
事業構想学群	情報サービスデザイン	授業の運営も学生の成果も、概ね満足できる結果となった。来年度は学生の作業の進捗により留意して、時間を有効に活用したい。
事業構想学群	建築計画	授業評価アンケートでは、授業内容や教材、説明について一定の評価を得た一方、学生自身の課題関連態度や授業外学習時間には改善の余地がみられた。また、口頭説明の内容が把握しづらいとの指摘もあった。今後は、授業の要点をより明確に示すとともに、資料配布と口頭説明、板書に改善を加え理解を支援する。さらに、振り返りコメントやレポート課題の位置づけを明確化し、学習時間の確保と知識の定着を促す。
事業構想学群	建築一般構造	授業評価アンケートでは、知識・技術の習得には一定の評価がみられる一方、教材のわかりやすさや課題説明等に改善の余地が示された。資料配布、連絡事項、課題条件の周知をより明確に行うように努め、学生が授業内容を確認しやすい体制を整える。
事業構想学群	施工技術	授業評価アンケートでは、授業マナーや知識習得に一定の評価がみられる一方、資料配布や授業内容への関心喚起に改善の余地が示された。スライド等の補助資料の配布を検討するとともに、課題・連絡事項の周知を整理し、学生が内容を確認しやすい体制を整える。
事業構想学群	構造力学II	非常勤講師の権代先生による科目でしたが、限られた時間の中で、履修者の皆さんが権代先生と対話しながら授業内容を理解しようと努力したようすがうかがえました。引き続き同様の科目運営がなされるよう、努めます。
事業構想学群	構造力学演習	授業評価アンケートでは、授業内容や知識習得には一定の評価がみられる一方、教材のわかりやすさや授業運営面に改善の余地が示された。演習資料、課題条件、出席確認や連絡事項をより明確に周知することに努め、学生が継続的に学習へ取り組みやすい体制を整える。
事業構想学群	耐震設計法	一級建築士の受験要件を満たす上で、実質的には必修相当の科目であり、多くの皆さんに受講していただきました。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
事業構想学群	地区・街区計画	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
事業構想学群	コミュニティ・プランナー実践論	・グループでの活動が多く、また、フィールドワークに赴いたりなど学びが沢山ありました。 ・外部の方と関わりながらの活動だったため実装はできずとも事業案を具体的にイメージしながら作ることができた ・古民家に訪問したり、みんなで話し合いを白熱させるのが楽しかったです。 ・現地の訪問やグループワークを通じて、地域の資源をより良く活用するにはどのようにすれば良いのか、について、一つのテーマを時間をかけてじっくりと考える事で、実践的な地域創生の仕事を体験する事ができた点。 実践者によるレクチャー、学外でのサイトビジット、グループワークを実施し、概ね学習到達度を達成することができた。次年度以降も上記のプロセスを基礎として講義計画を設計する。

開講学群	科目名	授業改善計画
事業構想学群	コミュニティプランナーフィールドワーク演習Ⅱ	本科目は、プロジェクトの実施を伴う科目であり、「コミュニティプランナー・フィールドワーク演習Ⅰ」と連続する形で位置づけ、1年間を通じてプロジェクトに取り組む講義構成としている。今年度においても、フィールドの設定から中間・最終発表、振り返り、さらに連携先である兵庫県立大学との合同発表会に至るまで、一連の事業プロセスを学外での事故等もなく円滑に実施することができた。 一方で、フィールドノートの必要性について十分に理解できなかったという学生からのコメントが1名あり、フィールドワークにおいてフィールドノートは当然のものと捉えていたことから、その意義や役割についての説明が不足していたことを認識するに至った。近年のデジタル化により、オンラインツール上の議事録等で十分ではないかという認識が背景にあると考えられるが、フィールドノートはプロジェクトのプロセスを理解する上で重要な基礎資料であり、伝統的な手書きによる一次記録ではあるものの、1年を通じたプロジェクトの進展や、コミュニティプランナーとしての成長を測る尺度ともなり得る点で、その有用性は高いと考えている。 次年度においては、フィールドノートの位置づけや意義について学生への説明をより丁寧に行うとともに、活用方法についても学生と共有しながら、改善策を検討・実践していきたい。
食産業学群	経済経営学基礎	担当教員が変わるので、よかった点は継続していきたい。
食産業学群	食材生産概論	本授業は、生物生産学類で展開している研究・教育を理解するための第一歩となるものです。今後も多様な分野の教員が研究内容をわかりやすく紹介していきますので、皆さん自身の興味や将来像と関連づけながら、これらの学びに生かしてください。
食産業学群	フードマネジメント概論	この講義は各回フードマネジメント学類教員15名による講義を実施した。いわばフードマネジメント学類入門を意図している。学生のコメントもこの意図がうまく伝わっているようで，その後の学類選択について十分参考になったと考えている。教員側の講義についても入門を意識しながらもその専門や関心について学生に伝わるよう工夫をおこなっている。もちろん，1コマなので完全にその分野を知ることは難しいが，これから学ぶ者にとっては適切なインデックスになったと思う。残念ながら講義の性質として授業時間外の学習時間は少ないが，それでもこれから長い学習過程をたどる学生の方向付けに貢献していれば，そのトータルとして評価できるのではないかと考える。
食産業学群	科学基礎実験	授業運営や到達目標設定については概ね適切に実施できたと考えているが、授業評価結果では、授業外学習時間にばらつきが見られるとともに、一部学生では授業進度や内容理解に難しさを感じている傾向もうかがえた。特に、物理・化学・生物等の基礎知識に差があり、実験内容の理解やレポート作成に不安を感じる学生も見られたことから、今後は授業のポイントや到達目標との関連性をこれまで以上に明確に示すとともに、事前・事後学習で取り組むべき内容を具体的に提示し、主体的な学習を促したい。また、実験前の基礎事項の確認や、実験結果の考察方法に関する説明を補足し、復習用資料やレポート作成支援を充実させることで、理解度の定着と学習意欲の向上を図る。加えて、課題提出方法や評価基準についても科目間・担当者間で表現をできるだけ統一し、学生が迷わず取り組めるようにする。
食産業学群	食材生産・加工実習Ⅱ	受講人数が多いため実習中の指示が届かないケースがあったが，実習の成果品としての食品はよくできており，概ね目標は達成されたと思われる。レポートの採点基準については改善したい。
食産業学群	食品マーケティング基礎	外部講師によるマーケティングの実務に関する講義を複数回取り入れたことについて、学生からは好評だった。成績をみるかぎり到達目標は概ね達成でき、その目標として適切なものであった。また、講義内での食品マーケティングに関する最新の事例共有についても好評だったため引き続き重点的に取り組み、学生の食品マーケティングへの関心を高めていきたい。
食産業学群	地域食産業論	複数の外部講師中心の授業の場合、資料配布の有無や担当教員との授業中のやりとりは様々です。資料配布がないからこそ自由にいろいろなことを話してくれる経営者も多いので、その点は一律という訳にはいきません。こちらからもできるだけ配布可能な資料があればリクエストしますが、経営者には責任が伴いますので、完全な部外者である学生さんに対しては重要資料は提供できずあくまで概要を口頭でとなる場合が多いことをご理解ください。それ以上に重要な点は、自ら経営を担っている方々のナマの生き方や考え方を学生さんが直接感じ取ることですので、できるだけそのような形を追求していきたいと考えています。
食産業学群	経済数学	試験に出る問題を事前に公表することで、勉強した学生ほど良い成績となるように工夫した。実際に、講義を理解し、自分でも演習を繰り返した学生が良い成績となった。応用統計学などの履修も推奨し、数学、統計、経済学等の関連分野の総合的な理解に向けて科目を運営していく予定である。
食産業学群	キャリア開発	この「キャリア開発」では、労働市場や職業理解に焦点を当て、「仕事とは」「働くとは」を自分事として捉えられるようなシラバス構成としています。第一線で活躍されている卒業生や企業の人事担当者、地元企業などによる講話を通じて、企業の魅力や労働環境改善への取り組みに触れ、学生が職業観を深める機会になったと考えます。また、企業研究発表会では、学生一人ひとりが主体的に企業研究を行い、業界や企業を見る視点を養い、視野を広げることができました。 　一方、ワークの時間を十分に確保できず、考えを深めきれなかった学生もいた可能性があります。今後は、ワーク内容と時間配分を見直し、卒業後のキャリア形成や就職活動により実践的に役立つシラバス構成になるよう工夫していきます。
食産業学群	実践キャリア開発	この講義では、学生が就職活動に自信を持ち主体的に行動できるよう、履歴書の書き方、グループディスカッション、面接練習など実践的なノウハウを伝えました。特に、グループディスカッション演習、面接練習では、企業が求める実践的な能力への理解を深める目的として、企業の人事担当者、ハローワーク職員、就職情報企業の専門家の方々にもご協力を頂きました。学生にとっては、現場に即した的確なフィードバックを得ることができる貴重な機会となりました。また、これまでのキャリア関連科目で培ってきた業界・企業研究の成果を活かす実践の場として、”学内業界研究会”に参加してもらいました。 　一方、社会人マナーとして必須となる「報・連・相」の意識を十分に身についていない学生も見受けられました。今後は、出席態度や提出物の管理についても、社会人としての責任ある行動であることを繰り返し指導し、意識向上と行動改善につなげていきます。
食産業学群	付加価値食材生産法	今年度は全体を3クラスに分け、5回ずつ3分野（畜産、農産、経営）の講義・グループワーク・提案プレゼンテーションを実施した。少人数のクラスとしたことで活発な議論につながったため、次年度も同様の構成で実施する。改善点としては、一部の実施回の班編制は学生の希望による任意のグループを可能として、目標の一致するメンバーと協力してより高度な提案作成に期待したい。また、グループワークの時間を、ある程度授業時間内にも確保して、教員の助言による議論の活性化と発表内容のブラッシュアップを図る。

開講学群	科目名	授業改善計画
食産業学群	植物保護学	本科目の対象としている分野は幅広く、学ぶべき内容も多い。そのため、講義内容のより一層の重点化を図る。教材の改善としては、教科書と重複する植物病理学分野は配付資料の要点をさらに絞り、教科書を指定していない昆虫学分野はさらに配付資料を充実させる。授業内容は必要な部分は残しつつ重点化を図り、十分な時間をとって学生が理解しやすい解説に努める。また防除分野は研究段階の技術も盛り込み、新技術への理解を深める。
食産業学群	施設園芸学	授業運営や到達目標設定については概ね適切に実施できたと考えているが、授業評価結果では、授業外学習時間が比較的少ない傾向が見られた。また、全体として授業内容や教材に対する満足度は高かったものの、一部学生では授業内容の理解や到達目標達成に難しさを感じている様子もうかがえた。実際に成績評価においても、理解度や学習意欲に差が見られる学生が存在している。今後は、施設園芸技術や環境制御について、写真や実例、実際の栽培データ等を活用しながら理解しやすい授業運営を継続するとともに、事前・事後学習で確認すべきポイントや復習内容をより具体的に提示し、授業外学習の促進を図りたい。また、理解が不十分な学生に対しては、補足説明や学習支援を行い、基礎知識の定着と理解度向上につなげていく。
食産業学群	植物生産実験実習Ⅱ	作物分野：水稲実験では宮城県主要品種の理解向上を図っている。特に、収量構成要素の分析を通じた生産特性の理解を深める。形態観察実験では手法工程全体を体験できるようにする。 園芸分野：培養液中の肥料成分をイオン濃度へ換算する計算や実際の養液栽培を通じて、肥料が培養液中で無機イオンとして存在すること、および培養液管理と養分供給との関係について理解を深める。 土壌分野：「土壌肥料学」を受講していない学生向けに交換性陽イオンの測定時に説明を増やし、原子吸光の説明に炎色反応の演示を加えてわかりやすくする。 病害虫分野：昆虫病原菌だけでなく植物病原菌なども用意し、同期開講の「植物保護学」で得る病害虫防除に関する知識を補完して理解を深める。
食産業学群	暮らしと作物	実物の作物やその製品に触れることにより、その作物の特性・利用方法を理解しやすくなるので、今後もできるだけ多くの作物やその製品を準備したいと思います。また、様々な作物に興味、関心が持てるよう、動画を活用した教材の充実も図っていきます。
食産業学群	動物生殖学	授業を通して動物や繁殖学の面白さを伝えたいと考え授業を行っています。「知識や技術の習得・知的関心の喚起に役立った」について満足と回答している学生が半分を越していることは良かったです。しかし、授業外の学習時間が他の科目に比べ少ないところも気になりました。小テストを改善するとともに、レポートも取り入れて授業改善を図っていきます。
食産業学群	動物生産基礎実験	データ解析、図表の書き方、レポートのまとめ方等、さらに丁寧に指導していく。
食産業学群	動物生産管理学	新規採用教員の着任に伴い、今年度は講義内容に一部変更を加え、アニマルウェルフェアを取り入れて講義内容の充実を図った。科目運営や目標設定は適切に機能し、学生の学修到達度も高かったと捉えている。内容変更に伴い、授業計画や事前・事後学修の進捗を一部微調整しながら進めたが、学生は概ね意欲的に取り組んでいたと判断している。 次年度は、今年度に取り入れたアニマルウェルフェアについての内容の充実化を図りつつ、シラバスを見直す。それに伴って、適切な教材図書の選定や効果的な課題設定を精査・導入し、学生の主体的な学びを促すことで、教育効果の一層の向上につなげる。
食産業学群	水棲動物学	事前、事後学修時間が少ない傾向にあり、授業において学生に対して具体的な取り組み内容について指示をし学修時間の改善を図る。
食産業学群	水棲植物学	宮城県の水産業の中で重要な位置を占める海藻の養殖について、学術的・技術的な側面や啓蒙活動などの社会的側面を網羅的に解説できたと考えている。また、養殖現場で働いている非常勤講師の方々から、現場の声として、学術研究が実際の養殖に大きく貢献していることや、養殖事業の現状を学ぶことができたことは、他の講義ではあまり行われていない教育スタイルと感じている。責任教員と非常勤講師の役割分担もうまくできていたと思う。その成果が実り、特に海藻に興味を持ってくれる学生が出てきたことは大きな励みとなった。今後も同様の講義を行っていきたい。
食産業学群	アグロテクノロジー	項目８について事前・事後学修に費やした時間が短めであるとの回答でした。その一方で、レポートやプレゼンの内容については的確な成果を示していたので、課題としては適切か若干簡易であったと考えています。2026年度では学生の学修の様子をみて、課題の見直しを図ってみます。
食産業学群	アグリビジネス論	出席確認の方法については改善の余地あり。新システムが導入されるとのことなので、検討したい。
食産業学群	食材生産経営学	経営学の理論と自然条件とが密接に関わる農業経営の特徴を、多角的に学べるよう授業計画を立案している。講義では、農業や食に関わるさまざまな社会課題について「経営者」という視点から考えられるよう、ゲストスピーカーによる講演や事例研究を取り入れて実践性を高め、当事者意識や主体性を育むよう工夫している。
食産業学群	現代食農ビジネス論	毎回の小レポートを通じて、文章力が身についたとのコメントが複数寄せられた。初めは文章を書くことに苦労していた学生も、フィードバックで指摘した点を修正・理解することで、次第に文章を書けるようになってきている。本年度からはグループワークやディベートを取り入れたが、学生からの評価は高かった。学生の実践力を高めるため、今後もアウトプットを重視した講義を継続していきたい。
食産業学群	農業経営経済学演習	少人数での授業であったため、活発な議論を行うことができた。学生からの授業評価は高かったものの、週あたりの授業外学習時間はやや少ない傾向にあった。今後は、課題レポートの内容や事前学修のあり方を検討し、授業外学習時間の増加につながるよう工夫していきたい。
食産業学群	分子生物学	事前事後学習について指示し、小テストや講義で確認しているが、高校の生物や基盤科目の事後学習が不足していると推察される。今後はさらにきめ細かく指導していく。
食産業学群	環境微生物工学	到達目標や授業計画そのものに問題はないと考えているが、成績評価にもとづいた達成度や学生の意見をふまえると、もう少しわかりやすくすることや、理解度を上げる工夫が必要であると思われる。使用する資料、説明する内容、授業間の接続性について検討する。
食産業学群	食と未来	受講生の満足度は高く目標は到達されたと思われる。 次年度も同様のカリキュラムで進めたい。
食産業学群	食品企業経営論	資料配布無しの授業の場合、スライドの要点を写す能力と話を聞く能力の両方が求められます。最低限の労力で講義に集中するには事前に十分に予習が必要です。そうでないと不要な内容まで必死に写すことになります。キーワードや考え方を授業で確認し、それを復習で本当に自分のものにする。学修はこの繰り返しですので、この点を繰り返し伝えるようにしたいと思います。

開講学群	科目名	授業改善計画
食産業学群	フードサービス産業論	概ね平均を上回る結果でしたが、以下の２点について改善を検討しました。 ①受講者数に対して教室のキャパシティが小さいとの指摘が多く見られた点。→履修者数が100名を超えていたにも関わらず、他の科目でメモリアルホールや大講義室を使用していたため、窮屈な思いをさせる結果となってしまっていました。令和8年度は時間割を変更して大きな教室を確保できるように改善しました。 ②授業外の学習時間が少ない点。→より具体的な課題を出すなど、対策を講じてまいります。
食産業学群	食品流通論	講義内容は前年度の授業評価を踏まえ修正したことで改善できたが、少数の学生から改善点を指摘されているため、可能な限り対応していきたい。
食産業学群	食品マーケティング演習	クラスサイズも適切でグループごとでの取り組みや発表の機会を対面で実施でき、演習として効果的であったと考える。演習のため、講義は学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートしながら取り組むことから、対面での実施は非常に効果的であった。企業との産学連携を行いながら実践的な食品マーケティングを学べる本講義については学生から好評であった。今後も実践的な食品マーケティングの学びを学生が習得できるよう講義内容を工夫していきたい。
食産業学群	食品企業経営戦略演習	設問はかなり大きなくくりで問いを出していますが、それに答えるには、具体的な内容をひとつひとつ自分で積み上げていかなければなりません。「実際に自分で手を動かし、計算をし、自分の頭で考えることを通して多くのことを学べた」というコメントがある一方で、「資料に書いていないことを予習の問題にしないでほしい」というコメントもあります。授業で出した設問はすべて、経営戦略を考える際には必要なものです。資料に出ていないならそれを調べる、それもまた予習に必要なこととご理解願います。この点も繰り返し説明しながら演習を進めていきたいと思います。
食産業学群	食品経済・政策論演習	この演習科目は卒業研究を意識した社会科学研究の実践的な方法を演習するものである。授業での演習を中心にしてしまったためか自宅学習の時間が少なくなっているのが残念だが、学生自身の演習取組み自体は評価できるものである。食産業を調査にあたって，WEBにある情報の取捨選択，統計に関するExcelの処理，グラフ化などこれまで学んだIoTや統計学的知識を駆使して行い，また，統計利用で注意すべき点など扱える題材を選んで授業を進めるなど時間外での学習時間が確保できるよう工夫していきたい。
食産業学群	フードコミュニケーション	受講生の満足度は高く目標は到達されたと思われる。 資料については分量・内容とも、受講生が読み理解しやすく、できる限り字を大きくし要点が分かるように努めたい。 次年度も、引き続き、受講生の将来のキャリアに沿うとともに、関心を引き起こす講義としたい。
食産業学群	フードサービス産業論演習	平均値を大きく上回る項目が多く、受講者が満足している様子がわかりました。 計画通りに実施できたと実感しています。 グループワークでの進捗管理において、各グループとの個別面談をさらに深めていけたらと考えております。
食産業学群	グローバルフードシステム論	本講義は2面よりグローバルフードシステムについて学ぶことを目的としている。1つは比較優位と経済的余剰理論による国際貿易の考え方，それと国際食料貿易の実態である。さらに本年度は内閣府のWTO交渉の担当者に来学してもらいWTO交渉についてアクティブラーニングで学ぶ機会を得た。経済理論の部分は学習が定着するに時間のかかるものであるが，公務員試験などの頻出問題が解けるレベルまでできるように講義を工夫した。また国際食料貿易については最新の統計などに基づいて説明が行われているので，タイムリーな話を学ぶことができたと考えている。
食産業学群	食品情報科学論	今年度は2年次の食品流通と関連させた内容を取り入れたことで、学生にとって新たな知見を得る機会となったため、引き続き、時代の変化に対応しつつ、食品流通と関連させた講義を提供していきたい。
食産業学群	食品貯蔵・流通技術論	概ね問題なく進めることができ，目標も到達できたと考えている。試験時間については再考したい。
食産業学群	食品工学	引き続きわかりやすい講義内容や資料作成に努めるとともに、生成AIを活用した学習環境の向上を図る。学生からの評価は、 重要な語句は赤文字で書かれており、テストに向けて勉強しやすかった。また、マヨネーズの実験から乳化のイメージが持ちやすかった。 学生が発言する機会が多かった点 工学的な知識が乏しかったので、不安でしたが、先生の教え方がわかりやすく、楽しく授業を受けることができた。 わかりやすかった があり、評価が高かった。要因としては、初回の講義で説明したことで履修者が希望者に限定した感がある（非積極的な学生は履修しなかった可能性あり）。
食産業学群	水産食品学	概ね問題なく進めることができ，目標も到達できたと考えている。試験時間については再考したい。
食産業学群	畜産食品学	科目運営、到達目標と学習到達度、授業計画などは、アンケート結果から特段問題はないと思われる。昨年度と同様に、小テスト、中間試験、期末試験の実施、レポート課題などを行う。
食産業学群	調理科学	科目運営、到達目標と学習到達度、授業計画などは、アンケート結果から特段問題はないと思われる。今後も、例年同様に行いながら、知的好奇心を刺激するような講義を行う。また、小テスト・質問などはteams等を使って共有し、適切な双方向授業を引き続き実施する。学生の理解度や到達度を確認しながら、講義を行うことも心がける。事前・事後学修については、まだ不十分な点があり、課題レポートなどを課すことにより改善していきたい。
食産業学群	食品衛生学実験	当該科目の内容は、実際の食品工場における品質管理の現場で行われている作業を、理論と実践を伴った形で体験するものである。本年度は、学生の積極的な参加と十分な学習により、充実した内容となった。 次年度以降も、基本的には本内容で実験を進める予定である。ただし、ガラス器具の破損による数量不足や、分析機器類の経年劣化により、一部で支障が生じる場面があり、十分な準備・整備を行ったうえで授業運営にあたりたい。 なお、本実験科目では、食品安全に関わる基本的な微生物の取扱いや、食品成分および食品添加物成分の定性・定量分析の基礎を学び、実践する。これらの内容は、食品製造現場での活用はもとより、その後の卒業研究や卒業後の工場・研究現場においても十分に役立つものである。基礎を確実に身につけ、次の段階での応用につなげることを期待している。
食産業学群	発酵食品・醸造学	本講義は、実際に活躍されている著名な先生を迎えて、お話だけでなく体験（試食）も含めた講義形式である。ただ、各先生方の日程がまちまちとなり、さらに就職活動と言って欠席もある。日程調整を事前に確定し、告知できるようにしたい。

開講学群	科目名	授業改善計画
食産業学群	品質保証システム演習	当該演習科目は、講義、グループワークによるディスカッション、プレゼンテーションを繰り返しながら学習を展開する内容となっている。このため、一定時間のまとまった時間を連続的に確保する必要があり、開講時期を夏季休業期間とし、対面による集中講義形式で実施している。受講学生の参加意欲や取り組む姿勢も良好であり、演習前後の学習時間も確保しやすい状況であった。 演習の改善点としては、本科目の特徴であるグループワークの運用に工夫を施したい。本演習では、グループごとにHACCPプランを作成するが、近年はAIの活用により、議論の過程を十分に経ずに正解に近いプランを作成することが可能になってきている。しかしながら、本演習の目的は正解を導くことではなく、グループワークを通じて意見交換を行い、関連スキルの向上を図る点にある。この点に十分留意しながら、授業運営を行いたい。
食産業学群	食品の安全性管理	概ね問題なく進めることができ目標も到達できたと考えている。出席確認方法については既に改善を講じている。試験については再考したい。
食産業学群	食感性科学	外部非常勤講師にお願いした講義であったが，概ね問題なく運営されていた。次年度より担当教員が変更となるが，満足度の高い状況を維持したい。
食産業学群	食品化学実験	本実験は、卒論研究の担当の先生に振り分けて、その研究室ごとに研究するものでる。各先生のおかげで順調な進行ができた。
食産業学群	栄養科学	今年度は、卒業研究での必要性や将来を見据えて、あるいは本実験実習を行ってみたいという意識をもって履修していたため、全員が大変意欲的に実習に参加していた。グループ協働で動物飼育・解剖・分析を真剣かつ和やかに取り組み、結果を取りまとめて十分な考察を行うことができ、学修到達目標は達成できたと考える。全員が意欲的に取り組んでいたことで、大変充実した実習となった。